

朝の礼拝

聖書 エレミヤ書 29 章 11（旧約聖書 1215 頁）

あなたがたのために立てた計画は、私がよく知っている——主の仰せ。それはあなたがたに将来と希望を与える平和の計画であって、災いの計画ではない。

平和の計画

いよいよ今週末、英和祭を迎えます。中学1年生は初めて、高校3年生は最後の英和祭です。今年のテーマは「希望」です。私たちは過去の経験と未来の予測から、今、何が最も大切で、必要なことなのかを考え行動しています。でも実際の結果は誰にもわかりません。そこで、私たちはこうなればと願い、不安と期待の中で祈るような気持ちになります。

確かに私たちが願い、そのように祈るのは自然なことです。でも思い出すことがあります。今年、中一修養会に参加した英和生が話してくれた「祈り」についてのお二人のお話です。お二人とも「祈りは自分の願いではなく、神様の御心（計画）を信じて生きる」という内容のお話をされたと思います。私はそのお二人の話を聞き、とても励まされました。

冒頭のエレミヤの預言には神様の御心（計画）は「災いの計画ではない」とはっきりとありました。毎日、異常な暑さが続き、今、竜巻で家を失い、電気が止まっている人たちがいます。空襲警報で眠れない日々を過ごしている人たちがいます。ミサイルに怯えながら、水も食料もなく飢え、渴き、幼い命が息絶えています。それは神様の御心（計画）ではないということです。

エレミヤは大国の侵略によって、家も畑も、神殿もすべて破壊され奪われ、遠い地へと連行された人々へ手紙を送りました。どうかそこで家を建て家族を守ること、たとえ知らない土地であっても、その地の平和を祈るようにと言っています。それはあなたの将来と希望はすでに用意されている、あなたに平和が訪れることが神様の御心（計画）だからです。

（しばらく黙祷しましょう）

慈しみ深い主よ、あなたの計り知れないあわれみとみ恵みに感謝します。先週は私たちの住む地で台風、竜巻によって家を失い、被災し避難生活をしている方々がいます。またパレスチナのガザ、ウクライナでは愚かな争いによって幼い命が犠牲となっています。そしてアフガニスタンでも大地震によって被災されている方々がおられます。それはあなたの御心（計画）ではありません。私たち英和女学院も 138 年の歴史の中で深刻な時代を過ごした時もあなたが共にいて、そして地域の皆さん、同窓会の皆さん、家族、教会の皆さんと共に歩んできました。どうか英和祭を迎える今、この混迷した時代にあっても、改めてあなたに感謝を献げ、共に歩んできた皆さんと希望と平和を祈る時にしてください。また心身に苦しみを覚える家族、友人を覚えて祈ります。どうかその艱難を耐え、御心ならばひと時でも早く回復の時を迎え、共に喜びと感謝を献げることができますように祈ります。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン